

【受式者】 吉田 敏明（よしだ としあき）さん
[富山教区第4組妙蓮寺門徒]

【法 名】 釋勝尊（しゃくしょうそん）



—お一人での受式でしたが、不安はなかったですか。

参拝接待所で受付した時、受式するのが自分一人だとわかりました。

初めはびっくりしましたが、住職さんが「受式する人数が少ない多いは関係ない。大切なのは今日吉田さんがここに来て、帰敬式を受式されるということですよ」とおっしゃってくださり、「そうだな」と心が落ち着きました。

受付では、職員の方が式次第をはじめ、記念品の肩衣の付け方や持ち物の確認、誓いの辞の練習など、丁寧に教えてくださいました。妻と住職さんと一緒に確認できたので、より心強かったです。

—帰敬式受式のきっかけを教えてください。

私は、建築板金工事の会社を立ち上げ、これまでずっと仕事一筋で生きてきました。ビルや工場、公共施設などのさまざまな建物を形づくる際に欠かせない、屋根や壁の外装材を取り扱っています。昼夜問わず、時間の許す限り、現場をいくつも回って作業をする毎日を送ってきました。

そんな中、身近な人の死に出あうことが増えてきたのです。仲良くしていた友だち、同級生、自分の兄弟も亡くしました。人は生まれて、死んでいく存在。頭ではわかっているけど、自分のこととして考えられていませんでした。このままでいいのかな…そんな思いが心によぎった時、すでに受式していた妻から「お父さん、おかみそりを受けてほしい」という言葉があり、受式することを決めました。

—これから大切にしたいことを教えてください。

誓いの辞にあった「朝夕のお勤め」をできたらと思っていますが、できるかなあ。今まで、お寺のことや仏事は妻に任せきりでしたから、まずは自分事にできるといいなと思っています。

ます。

今回、「縁」を利用して、妻、住職さん、坊守さんの四人で同朋会館に初めて宿泊しました。部屋に入って最初に気づいたのはテレビがないことです。テレビがあるのが当たり前の生活を送っていましたから、どうしようと思いました。でも、同朋会館では、皆さんとゆっくり話す時間、両堂にお参りし、諸殿をじっくり見る時間がとても楽しくて、あっという間に時間が経ち、気になることはありませんでした。テレビだけではなく、もしかしたら他にも当たり前にしていることがあるかもしれません。帰ったらゆっくり考えてみたいと思います。